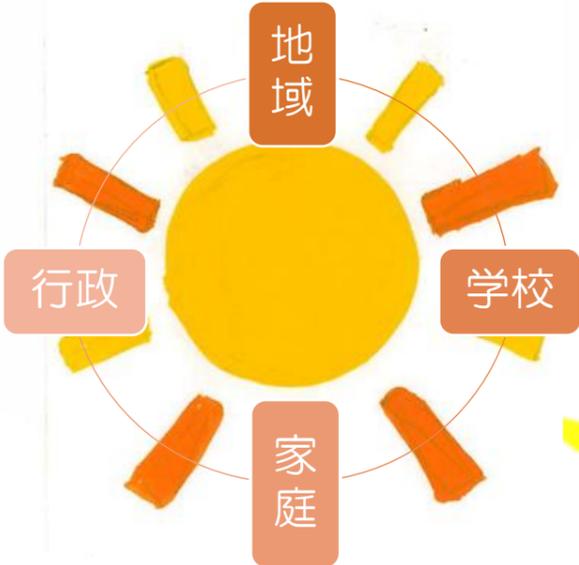


芦北町立田浦小・中学校研究発表会

【田浦中学校区目標】
なりたい自分を目指して

【研究主題】「自己を見つめ、自ら問いを持ち、
他者と協働しながら学び続ける児童・生徒の育成」



- 授業の工夫・改善（わくわく授業の推進）
- 総合的な学習の時間のカリキュラム
- キャリア・パスポート
- 新すまいる大作戦
- スタートカリキュラム



9年間の学びと育ちをつなぐ
学ぶプロジェクト
つながるプロジェクト



なりたい自分
コミュニケーション力
発信力

【小学校教育目標】
やさしさ・やる気・夢いっぱい
みんなとつながる田浦っ子

【中学校教育目標】
夢実現
潤いと輝きにあふれる学校

研究の実際（学ぶプロジェクト）

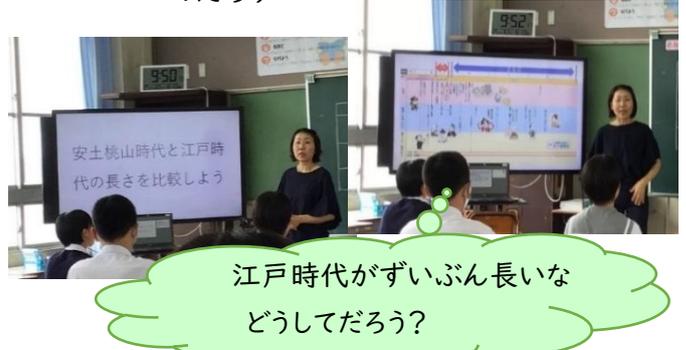
【授業の工夫・改善（わくわく授業の推進）】

あ

○あ！知りたい！ この授業で学ぶことを考えよう

●総合的な学習の時間：リーダーになるために

●社会：なぜ、江戸幕府の支配は260年も続いたのだろう



●国語：色々な接続語を知ろう

●音楽：曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう



ま

○まずは「なぜだろう」「おそらくこうだろう」と予想してみよう

●算数：どのくらいの水が入るか予想しよう

●理科：葉の内部はどんなつくりになっているだろう



●国語：説明文を読み比べよう

●数学：1次方程式の解の意味について考えよう



な

○なるほど 「やってみよう」「なるほど」「きっと」を使って課題に取り組もう

- 国語：日記を読んで良いところを伝えよう



- 理科：気圧って何だろう？



- 国語：文章中の図やグラフの役割について考えよう



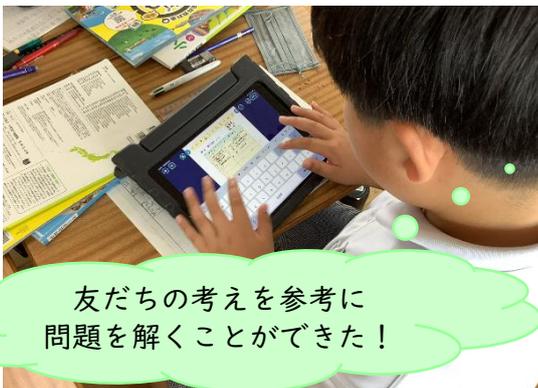
- 数学：1次関数のグラフについてわかることは？



つ

○つなげよう 「もっとこうしたい」「できた」と学んだことを振り返ろう

- 社会：低い土地の暮らしを考えよう



- 体育：各技能を身に付けよう
(ソフトボール)

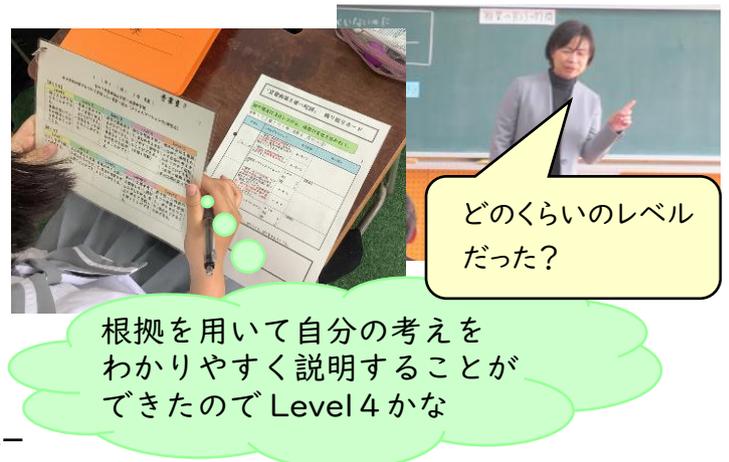


- 総合的な学習の時間：防災を地域につなげよう

たくさん学習したね 次はどうする？



- 音楽：曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう



研究の実際（つながるプロジェクト）

【9年間の総合的な学習の時間等のカリキュラムの作成】

身近な場所を知ろう



学校たんけん



わたしたちの町



みかんを育てよう



「学校や地域にはこんな『人・もの・こと』があるんだね。」

ふるさと発見！ 自分発見！



「自分や地域にはこんな『よさ』があるんだね。」



リーダーになるために

田浦を知ろう



集団宿泊体験学習

田浦に学ぼう



災害に備えよう

田浦と自分の未来を考えよう



白太鼓踊り



職場体験



文化祭での劇

「私は将来こんな『自分』になりたいな。」

【キャリア・パスポートを活用した振り返り】



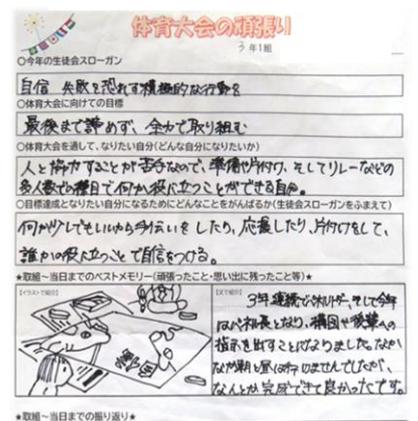
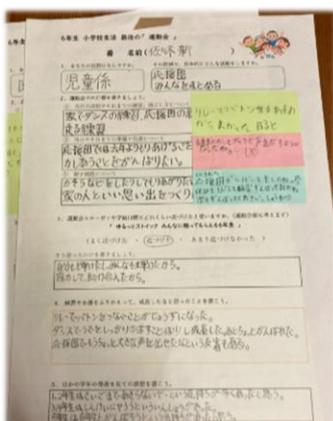
互いに振り返り（学期末）

【キャリア・パスポート小中共通実践】

- 位置付けた年間計画に沿って実施する。
- 記入する際は、過去の自分を振り返る時間を設定する。
- 教育相談や三者面談の時に、キャリア・パスポートを活用する。



体育大会後の振り返り



研究の概要

【研究主題】

「自己を見つめ、自ら問いを持ち、他者と協働しながら 学び続ける児童・生徒の育成」

- 自己を見つめるとは
自分自身を理解し、自分の能力や可能性を肯定的に捉え、主体的に行動しようとする姿
- 協働的な学びとは
様々な場面での交流を通して、一人一人のよさや可能性を生かしながら、よりよい学びを生み出すとする姿

【研究の仮説】

仮説1	五者連携（子供、学校、家庭、地域、行政）を意識し、「熊本の学び」を基本にした授業改善に努め、児童生徒が他者と協働しながら学び続けることができれば、コミュニケーション力・発信力を身に付け、能動的に学び続ける力がより高まるであろう。
仮説2	生活科・総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントについて小中で連携した取組を行い、9年間の学びをキャリア教育の視点を中心につなぐことができれば、児童生徒はコミュニケーション力・発信力を身に付け、能動的に学び続ける力をより高めるであろう。

- コミュニケーション力とは
相手の発する言葉を聞いて相手の思いを理解しようとしたり、持っている知識を総動員して相手に自分の思いを伝えようとしたりする力のこと。
- 発信力とは
学んだ知識・技能を活用し、多様な人へ、自分の考えをわかりやすく伝え、共感を得ることができるよう表現する力のこと。

【研究の具体的な取組】

【学ぶプロジェクト】

授業の工夫・改善（わくわく授業の推進）

疑問や予想が生まれる導入の工夫

協働性を促す学び合いの工夫

次時につながる「まとめ」と「振り返り」

「あまなつ」授業の実践

【検証方法】 児童生徒や教師の意識調査

【つながるプロジェクト】

9年間の学びと育ちをつなぐ方法の検証、実践、評価

9年間の総合的な学習の時間等のカリキュラム作成

キャリア・パスポートを活用した振り返り

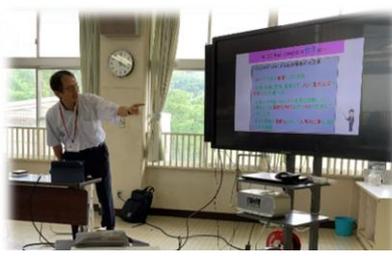
保・小・中で連携した新すまいる大作戦

小・中をつなぐスタートカリキュラム作成

【検証方法】 児童生徒や教師の意識調査



【プロジェクト会議】



【小中合同研修：講話】



【学校運営協議会との懇談会】

研究の成果と課題

仮説1 授業の工夫・改善について

※5ポイント以上上がった数値は青、5ポイント以上下がった数値は赤

学習アンケートの結果より (R7.4月 → R7.9月)	小学校	中学校
「どうしてだろう」「きっと～だろう」と考えながら学習をしていますか。	83.0% → 87.0%	71.7% → 58.1%
クラス全体やグループ、友達同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。	75.9% → 80.6%	55.6% → 67.7%
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	80.4% → 77.8%	68.3% → 79.0%
めあてをもって学習し、授業で学んだことをまとめていますか。	82.1% → 91.7%	69.8% → 67.7%
できたことやわかったこと、頑張ったことなどを自分で振り返っていますか。	85.7% → 90.7%	57.1% → 56.5%
自分の考えが上手く伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると思いますか。	83.9% → 83.3%	66.1% → 69.4%

【児童の声(振り返りシートより)】

発表するときや聞くときは、自分の意見と比べたり、もっといい意見を出すためにノートやタブレットにメモしたりしておくといいことが分かった。

今日は質問をすることができた。質問すると自分が知らなかったことも知ることができたし、相手の考えもよく知ることができた。

【生徒の声(振り返りシートより)】

自分の意見を根拠を持って言えた。他の人の意見を自分の意見と照らし合わせて聞くことができたのでレベル2だった。

班の人たちの意見を聞いて同じ場面なのに情景を読み取るところが違ったり、別の音に注目して曲の良さを感じたりと友達の見解からこの曲の良さを別の視点から感じる事ができた。

【教師の声】

- ・学習スタイルをもとに同じ視点を持って授業改善に取り組むことができた。
- ・「あまなつ」を合言葉に、教員と子供、教員同士でめざす授業についての共有化ができ、活動の充実につながった。
- ・振り返りを行うことで、教師も子供も授業のポイントをより意識するようになった。

仮説2 カリキュラム・マネジメントの取組とキャリア教育の視点でつなぐ9年間の学びについて

学習アンケートの結果より (R7.4月 → R7.9月)	小学校	中学校
日々の授業や活動の中で、自分は成長したな、少し大人になれたなど感じることはありますか。	81.3% → 88.8%	77.8% → 75.8%
将来、あんな人になりたい、こんな仕事につきたいという夢や目標がありますか。	91.1% → 95.4%	77.8% → 85.5%

【児童・生徒の声】

- ・メディアの時間を減らしたことでかわりに読書の時間が増えたからよかった。(中学生新すまいる大作戦より)
- ・いつもより早く寝ることを意識した。メディアの時間が減ってよかった。(小学生新すまいる大作戦より)

前は、いやいや言って物事からにげてきたけど、乗り越えればもっと頑張ろうと思うことや、意外に楽しいかもと思うことが増えたので、これからはまずやってみることを大切にしていきたい。(中学生キャリア・パスポートより)

【保護者の声】

- ・読書できる環境づくり(テレビを消す・本を借りる)も大事だと思う。
- ・テレビをゼロにすると別の楽しみや発見があると少し実感できた。(新すまいる大作戦より)

生活のリズムを整えて、少しずつ受験生という自覚ができてきたように思う。友達と助け合い、優しい大人になってほしい。(キャリア・パスポートより)

【教師の声】

- ・小中でつながるだけでなく、生徒一人一人が他者とつながることを意識した取組ができた。
- ・小中合同研修をとおして、幅広い年齢層の児童生徒それぞれの実態を踏まえてすりあわせを行っていく活動は双方にとって学びがあったと思う。「中学校に向けてこんなことをするとよい」という視点で考えられるようになったことは大きな収穫だといえる。

【成果と課題】

- コミュニケーション力・発信力のレベル表を活用して伝え方を意識して指導するようになったことで、積極的に発言したり、発表の仕方を工夫したりする児童生徒が少しずつ増えてきている。
- キャリア・パスポートの効果的な活用や総合的な学習の時間についてキャリア教育の視点で見直しを図ったことで、小・中学校ともに夢や目標への意識が高まった。
- 系統表の作成により、小・中学校及び各学年のつながりがイメージできた。またスタートカリキュラムの作成により、中一ギャップの緩和につながった。今後も9年間の学びを意識した指導を行っていく必要がある。
- ▲アンケートの結果から、中学校では導入の工夫やめあての意識付け、次につながるまとめと振り返りに、小学校では話し合いによる考えの深まりや広まりに課題が見られる。児童生徒への更なる意識付けが必要である。